どがなかな大田市です!!

大田市ふるさと情報誌

VOL.19

2011.10

Contents

2-3P　産直市を交流の拠点に
　　今　元気なまち　久利町！
4-5P　三瓶で疎開生活
6-7P　東京からＩターン～念願のログハウス建築中
8P　キラリと輝く推奨店
9P　シリーズ石見銀山⑲／ちょんぼし語録番外編
10-11P　おおだ情報BOX／おおだの吹奏楽部大活躍♪
12P　ふるさとは今（姫逃池）／表紙紹介（潮川）

産直市を交流の拠点に

今 元気なまち 久利町！

高齢者など、地域住民が楽しく、生きがいを持てる活動を　そして、地域の活性化につなげたい！

毎週水曜日、土曜日の朝8時前、久利町の県道沿い、「くりの里産直市場」には、出荷した野菜を陳列する高齢者、そして、安くて新鮮な野菜を求める住民がにぎやかに集います。

大田町から石見銀山のある大森町に向かう県道46号沿いに今年の2月、産直市が出来ました。久利町内の住民が手作りで作り上げた産直市「くりの里産直市場」です。

久利町の状況

大田市久利町は、市の中心部の大田町と世界遺産・石見銀山の町、大森町との中間に位置する人口約1400人あまり、世帯数540世帯の中山間地域。町内には信号機は1台もありません。

久利町の農家のうち約8割が兼業農家で、高齢化比率が30％を超え、急速な高齢化、担い手の大幅な減少などが顕著になってきています。

特に今から30年あまり前の昭和50年代には地域のミカン（甘夏柑）団地が冷害で大打撃を受け、それ以降、農業に対する意欲がなかなか盛り上がらない状況でした。

地域に活力を！

このような地域の状況を少しでも克服しようと、昨年7月に地域住民による、手作りの産直市実行組織である「くりの里産直市場」を立ち上げました。

当初は、まちづくりセンター前にテントを2張り設置して、毎月1～2回産直市を開催してきました。今年に入り会員手作りの施設を主要県道沿いに設置、現在では、毎週1回土曜日（夏季は週2回）の開催までこぎつけることができました。

会員数は立ち上げ当初の約40世帯から現在では65世帯にまで増え、これまでは自家消費が主であった畑で、産直市に出荷するための野菜作りに精を出す高齢者も増えてきました。

くりの里を運営・支援するメンバー。前列左から３番目が川上典夫会長、その右隣が森山 護副会長

高齢者も元気と喜びを！

毎回の出荷を楽しみにしていますと話す、竹下鈴江さん（久利町・82歳）

野菜を出荷する、地元久利町の竹下鈴江さんは「今日は、なす、きゅうり、ピーマンなどを出しました。電動車で行き来していますが、少量の野菜でも出荷でき、生活に張りが出て、毎日を元気に過ごせています。絵手紙や切り絵などの展示もあり、ここに来るのを楽しみにしています」と話すなど、売上金は小額でも、収穫から次期への生産に向け、張り合いや元気を引き出すことが出来ています。

また出荷の際には親子や夫婦、また会員同士で協力しながら活動し、会話も増えるなど、「くりの里産直市場」の立ち上げにより生産者のやりがい、生きがいが生まれ会員同士の交流も活発になりました。

県の支援も後押し！

久利まちづくりセンターでは、今年度から3年間、「産直市を通じた高齢者の生きがいづくりと交流による地域力の再生」をテーマに島根県の『「地域力」醸成プログラム』事業に選定され実践活動を行うこととなりました。

この事業では「くりの里産直市場」の皆さんと連携を図り、久利町に元気を呼び戻すことを主眼に、高齢になっても産直市への農産物の出荷を続けられるような支援を行うことで生きがい、やる気など、明るいまちづくりと、仲間づくりを目指しています。

また、野菜の栽培技術習得や鳥獣害対策の研修会の開催、産直市場は町民の絵手紙など文化活動の発表の場、交流の拠点としてサロンのような役割を果たすことを狙いとしています。

ミニギャラリー（産直市施設内）

久屋小児童による俳句、住民による紙手紙や仏像切絵などが順次展示されています

地域力醸成プログラム

「人づくり」の拠点である公民館（まちづくりセンター等）が培ってきた「地域力」のノウハウを、中山間地域の抱える課題解決に向けた具体的な活動により実証しようとする県の支援制度。

久利まちづくりセンターは、平成23年度、モデル公民館等として島根県から選定を受け今後3年間活動を行うものです。

安くて新鮮な野菜

鳥獣害対策研修の様子

地元石見銀山テレビからの取材

施設隣地でのひまわり種まき

ひまわり開花

【お問い合わせ】久利まちづくりセンター ☎0854-82-5572

三瓶で疎開生活

NPOローハスクラブPEACEプロジェクト

「東日本大震災」の影響は、被災地東北だけでなく、子どもを持つ全国の親にとって、大きな不安を抱えるようになりました。
関東圏域からの疎開、子どもたちを放射能から守る取組みとして、NPOに所属する大田市出身の歌手、梶谷美由紀さんたち親子7世帯が大田での暮らしを実現し、この取組みを全国へ情報発信することで、被災地を含め多くの方の支えになっていこうとするものです。

大きな不安から逃れ 田舎への疎開

東日本大震災は、地震と津波による甚大な被害を多くの人に与えました。
特に福島県にある東京電力福島原子力発電所の被災により、放射能の影響が広範囲にわたり、避難を余儀なくされた住民が、今でも我が家へ帰れない状態が続いています。
こうした中、「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」が設立され、その活動に関わる団体の一つ、NPOローハスクラブのPEACEプロジェクトで、子ども支援を担当する梶谷美由紀さんが、疎開プロジェクトの一環として、出身地の大田市において、自ら夏休み期間中に保養活動を始めました。

活動を通じて 被災地支援

福島県周辺での放射線の飛散はメディアでも大きく紹介されていますが、放射線は五感で感じることができないため、影響を心配し、関東圏域でも生活に不安を感じている人がいます。
東京で暮らしている梶谷さん親子を含む計7家族18人（子ども11人、うち小学生7人）が、元社員保養施設「ログ三瓶」を利用して、都会を離れ、自然豊富な大田市三瓶町志学に移動し、いわゆる「疎開」生活を始めたのは8月初旬。放射能の影響による健康不安を抱えた関東の子どもたちを転地療養させることで、被災地への情報発信と福島・関東の子どもたちの疎開・保養を促すきっかけになればとの梶谷さんの思いからでした。
地元志学の自治会長、鈴垣英晃さんは、「何よりもここ三瓶町志学を好きになっていただきたい、田舎をゆっくり満喫し、元気になっていただければ」と大歓迎です。
梶谷さんたちは、すでに東北、関東から疎開・移住をして来た方同士のコミュニティ作りにも力を入れました。

▲暑い夏の子どもたちの遊びは、やはり「水遊び」です。三瓶の水の冷たさに、はしゃぐ声も悲鳴に聞こえます

近所のお蕎麦屋さん（沙羅）のご主人、児玉さんが、子どもたちへ手打ちそばを手ほどき。蕎麦粉にまみれながら奮闘しました

地域と交わり 新しい仲間も

活動の拠点となった「ログ三瓶」には、地元の野菜の差し入れなど、温かいおもてなしに感謝の日々が続き、近所の方を招いた夕食会を開くこともありました。
お盆には、志学の盆踊りに全員参加。地域の皆さんと一緒になって楽しい時間を過ごしたり、近くの農園の野菜や果物の収穫体験にも参加しました。
また、疎開プロジェクトの情報を聞いた周辺市町村や県外からも多くの人が訪

▲子ご美の里でのそうめん流しのおもてなしに、子どもたちは、ビックリ。福島の友達と一緒においしくいただきました

れ、交流も行われました。

なかでも、山口町の「子ご美の里」へ福島県から保養に来ていた母子４人が、里の主宰者、矢田千里さんと「ログ三瓶」へ訪れ、矢田さんのお誘いで、一緒に流しそうめんや、餅つきなどを体験したことは、子どもたちにとって貴重な出会いになりました。

矢田さん特製、古民家の囲炉裏で焼くお餅の味に感動。食欲も進みました（子ご美の里）

疎開活動から一時〝定住〟へ

夏休みの保養生活を過ごしている中で、梶谷さんたち母親たちの心は次第に動きました。

「子どもたちを東京へ戻せない。このまま大田に残りたい」心境の変化は子どもたちにも伝わり、家族の理解と協力も得られ、地元小学校への転校を決意。一時〝定住〟へ向けて動き出しました。

この夏、疎開プロジェクトの拠点となった「ログ三瓶」も、貸借期限の延長が今年末まで認められ、二学期から東京からの転校手続きを終えた３家族８人の田舎暮らしが始まりました。

小学生４人は、徒歩で５分のところにある地元志学小学校へ。全校生徒20人の学校へ東京の同じ小学校から４人の転校生は前代未聞です。早くも友達ができ、楽しい学校生活をのびのびと過ごしています。

これから三瓶は寒い季節を迎えます。そろそろ冬支度をとお母さんの心配をよそに、子どもたち４人は、今日も元気に学校へ通っています。

【ログ三瓶】

この度の震災で、株式会社テレビ新広島より大田市へ対し、所有する元社員保養施設（三瓶町志学）の無償貸与の申し出を受けていました。

今回の取り組みのために快く活用を承諾され、大田市が借用し、ＮＰＯローハスクラブへ貸与することとなりました。

▲鈴垣さんのブルーベリー農園にて

3月11日以降、我が子の体調不良をきっかけに、東京から西日本、いわゆる「疎開生活」を覚悟したのは7月初め。私のふるさとと大田市を選んだのは、ここ数年、東京の暮らしに行き詰まりを感じ始めていた自分にとって自然な流れでした。

私と同じように、お子さんの健康に不安を感じている友人知人が多かったこともあり、数家族でシェアして過ごせる仮住まいを探していたところ、快く「ログ三瓶」を貸していただき、7母子18人の暮らしが始まりました。

地元志学では、ご近所の方にとても親切にしていただき、楽しい時間を共有できました。畑で採れたお野菜、お米なども沢山いただきました。

私たちの東京からの声だけでなく、福島県の現状を知ってもらうため、ログ三瓶を会場に、私が活動する「子どもたちを放射能から守る全国ネット」の仲間で、福島からの子どもの疎開を進めている「ハーメルンプロジェクト」代表、志田 守さんのお話会も開催しました。

9月になり、保養を終えた皆さんのその後ですが、私を含め3母子が東京からの本格移住を決めました。

子どもたちの転校先は、ビルの合間から、緑豊かな自然の中へ。学校では早速、宿泊体験に参加し、三瓶登山も経験しました。

保養生活を終え東京へ戻った親子さんも、定期的に三瓶へ訪れることになり、9月にお試し保養に来た方がもう一人、三瓶を気に入り、11月から合流予定です。

今後は、もっともっと沢山の子どもたちに、ここ三瓶で思いっきり深呼吸し、のびのびと保養してほしい。私たちの暮らしていたお台場と三瓶をつなぐ試みや、三瓶の美味しくて安全な野菜やお米を関東や福島の子どもたち食べてもらうことも考えていきたいです。

ここログ三瓶が人と人、都会と田舎を結ぶ「かけ橋」になるために出来ること、地元の皆さんや新しい仲間たちと一緒に考えていけたら、とても嬉しいです。（梶谷美由紀）

【お問い合わせ】大田市役所まちづくり推進課 ☎0854-82-1600（内線211）

東京からIターン 大屋町に念願のログハウス建築中！

豊かな自然に囲まれ、ゆったりとした時間の流れを感じる日々。

松浦政喜さん・克枝さん

きっかけ

政喜（63歳）さんは、福岡県出身で、電機会社に就職し、福岡県への赴任から始まり、広島県などでの勤務を経て、東京で定年を迎えました。

定年後は田舎に自分でログハウスを建て、農業で自給自足の生活を送る事が夢だった政喜さん。

その夢を叶えるため、平成21年秋に東京で開催された「ふるさと回帰フェアー」を訪れました。北海道などのいろいろなブースで情報収集し、島根県に定住することにほぼ決定。那須高原なども候補地でしたが、克枝さんの実家が出雲市多伎町であったことも重要なポイントに。

その後、インターネットでいろいろ調べるうちに、”おおだ“の定住サイト『どがどが』の空き家情報を見つけ、いくつか良さそうな物件を発見。広島に住んでいるときに、仕事の関係で温泉津町を訪れたことがあったので、大田市もいいかもしれないと、早速、おおだ定住支援センターに相談し、物件を確かめに大田市へ行ってみることに。

素敵な場所との出会い

温泉津町や富山町など大田市内の物件をいくつか見て回り、そんななかで出会ったのが大屋町のこの場所。

見晴らしが良く、里山の風景が広がり、三瓶山も望むことができるここを気に入り、購入することに決めたのが平成21年の暮れ頃のこと。そして平成22年の夏、ここでの暮らしを始めます。

松浦政喜さん、克枝さんご夫妻

地区の親睦旅行や新年会などにもお二人で参加。「地元の皆さんにとても温かく迎えていただき感謝している」とのこと

ここでの暮らし

購入した農地が耕作放棄地であったため、軽トラック、草刈り機、耕運機、トラクターなどを購入し、まずは草刈りから始めることに。手間のかかる作業でしたが、荒れていた農地はほぼ回復しました。

今年は、残念ながら猪や猿などの被害に合い、思うような収穫にはなりませんでしたが、キュウリやジャガイモ、サツマイモなどの栽培にチャレンジ。

手間はかかるが、土や太陽にふれながら、自分の手で、自分の生活をつくる、そんな暮らしを楽しんでいます。

現在、松浦さんは念願のログハウスの建築に取り組んでいます。コツコツと進めてきた作業もあと少し。今年の暮れには完成予定。憧れのログハウスでの生活に期待が膨らみます。

敷地が高台にあるため、資材の運搬は大変だったそう。基礎工事から棟上げまではプロに頼み、内部の仕上げ
電気配線は第１種電気工事士の免許をもつ政喜さんが工事。自分でできる作業は全て自分の手で

内壁を張る木材をカットし、夫婦二人での共同作業

政喜さんが仕上げた外部の吹付塗装

政喜さんが定年後の楽しみにしていたこともあり、ログハウスを建てることは大賛成!! 克枝さんの夢だったワインレッドカラーのシステムキッチンは、夫婦二人で取り付けました。「何でもできるご主人で幸せですね」と克枝さんに問うと、「家事全般もしてくれると満点ですがね」と幸せそうに笑顔で答えてくれました。

陽あたりの良いベランダから
眺めることのできる三瓶山

【お問い合わせ】おおだ定住支援センター（大田市まちづくり推進課内）☎0854-82-1600（内線211）

新たに4店を表彰

悠々おおだ ふるさとの店
キラリと輝く推奨店

「おおだに帰ると、あれが食べたくなるんだよね」そんな思い出の味はありませんか。

大田市ではこのほど、さゝ井屋、さつだや、平野花月堂、小鐵屋旅館の4店を、「悠々おおだふるさとの店　キラリと輝く推奨店」として表彰しました。

この表彰制度は、長年、地域に愛され、地域に根ざした地道な商業活動を続けてこられた事業者の方を表彰し、商店街や地域の活性化を図っていこうと創設したもので、今回が3回目の表彰となります。

大田市へお帰りの際は、昔と変わらぬあの店へ、ぜひお立ち寄りください。

◆これまでの表彰店

- 霧の海食堂　きっ川（三瓶町志学）
- トリスバー（大田町）
- 日高恵比寿堂（三瓶町志学）
- 若林酒造（温泉津町）
- 出雲屋蒲鉾店（仁摩町）
- 有馬光栄堂（大森町）
- 一宮酒造㈲（大田町）
- のがわや旅館（温泉津町）
- 松村鮮魚店（仁摩町）

‘ふるさとの店’は
このステッカーが目印

【問い合わせ】
大田市役所 産業企画課
0854-82-1600
（内線231）

さつだや

■代表：岩谷京子さん
■住所：大田町大田ハ92
（店舗：駅前店、本店）
■電話：0854-82-1890
■ＨＰ：http://www.satudaya.com/
■営業時間等：9:30～18:00（駅前店）
■お店の紹介：創業は明治31年。店名‘さつだや’は創業者が安濃郡刺鹿村から大田村に移転したことに由来する。長年、郷土の自然や歴史にちなんだ銘菓を製造・販売している。

■お薦め商品：
☆浮布　788円～
☆銀嶺　683円～
☆生クリーム大福　158円～

さゝ井屋

■代表：笹井信夫さん
■住所：大田町大田ハ104
（店舗：パル店）
■電話：0854-82-0324
■営業時間等：9:00～19:00
■お店の紹介：江戸中期（1789年）に現在の大田町宮島猿ばみ川の畔で創業、200年余りの歴史をもつ。長年、郷土の自然や歴史にちなんだ銘菓を製造・販売している。

■お薦め商品：
☆きれんげ　110円
☆銀山しぐれ　120円
☆さひめ栗　170円
☆ジパング　115円

平野花月堂

■代表：平野智己さん
■住所：温泉津町温泉津ロ174-1
■電話：0855-65-2212
■営業時間等：8:00～18:00（不定休）
■お店の紹介：昭和22年に創業。温泉津温泉街に店舗を構え、地域や観光客に親しまれ続けている。店舗の外観は、町並みの景観にあわせて改装され、温泉津温泉街に欠かせない存在となっている。

■お薦め商品：
☆温泉せんべい　1,050円
☆温泉まんじゅう　580円

小鐵屋旅館

■代表：大島雅俊さん
■住所：仁摩町仁万443-1
■電話：0854-88-2611
■休日：不定休
■お店紹介：宅野村で創業後、大正７年に仁万駅の開業に合わせ現在地へ移転。冠婚葬祭の宴席の場として、地域に親しまれてきた。大正生まれの割烹旅館として、現在もその面影から、古き良き時代を思いおこさせる。

■お薦めメニュー：
☆一泊二食
8,500円～
☆会席料理
4,200円～

シリーズ石見銀山⑲　かえってきた「古丁銀」

さる10月８日から10日までの３日間、世界遺産センターでは、「古丁銀」という銀貨９点の特別展示を行いました。

古丁銀とは、戦国時代から江戸時代の初めごろに造られた丁銀の一種です。

石見銀山でも沢山の数が造られたと考えられますが、実は現代まで元々の形で伝わっているものはほとんどありません。

それというのも、この銀貨は枚数で使うのではなく、重さに応じてタガネなどで切って使っていたからです。

細かく切り分けられ、最後には鋳直されてしまうため、完形品が残ることは滅多にないのです。

そのため、今回のように沢山の完形品が９点も一堂に集まることは、非常に珍しいことでした。

今回展示した古丁銀は、元々は個人の方がコレクションしていたものを、島根県が購入したものです。

石見銀が使われたと考えられるものもあり、世界遺産石見銀山の価値をより明らかにする物証として、非常に貴重な歴史資料といえるものです。

沢山の人にご覧いただきました

この丁銀は出雲市にある島根県立古代出雲歴史博物館で、来年開催予定の石見銀山の世界遺産登録５周年記念事業や、戦国大名尼子氏に関連した企画展などでの展示が予定されています。（平成24年実施予定）

石見にゆかりある様々な丁銀が集まるよい機会です。大田にお帰りの際には、ぜひあわせてご覧いただければと思います。

［問］　石見銀山世界遺産センター　☎0854-89-0183　ホームページ http://ginzan.city.ohda.lg.jp/

ちょんぼし語録 番外編『とろへい（水上町）』

昔は1月14日になると小学校の高学年から中学生ぐらいまでの子どもらは「とろへい」をしよった。

いつもつるんどる仲間で「とろへいをしょうやぁ」ゆうことになりゃぁ、大人にこさえてもろうた藁馬に端切れで縫った袋と、5〜6メートルぐらいの縄を結わえて夕方歩くだ。

近所の家の玄関を開けて、藁馬を投げ込んで「とろへいとろへい」ちゅうて声をかけて隠れとると、その家の大人が袋の中にいろいろ入れてごすだ。それから縄を引っ張るだが、その家のもんも「どこのしごんぼが来たか、一目見ちゃろう」ちゅうて顔を見ようとする。そいで馬を取らせまぁと縄をさかしに引っ張ったり、隠れとる物陰に水をひっかけたりしよった。水をかけられりゃぁ元気になるとか、風邪ひかんとか言うとった。

顔を見られてもなんちゅうことないだが、それがお遊びよ。水も本気でかけやせんし、次の日には恨みっこなしだった。ほいでも意地の悪い家には井戸にスクモ（もみ殻）を投げ込んだり、いたずらをして帰っちゃるだ。

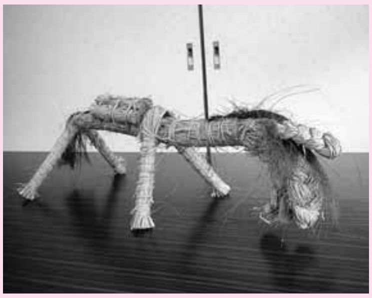
仕舞いに近所の地蔵さんに藁馬を供えて帰るだが、あんまし対応の悪い家がありゃぁ、藁馬を牛小屋に吊るしちゃるのよ。そうすりゃ牛に悪いことが起こるっちゅうて言われとって、それを大人も恐れとった。滅多にそがなことはせだったがな。終わってからは神社の境内で中身を山分けして、餅を焼いて食べたりしよった。

14日にゃぁ15日の御正忌さんのために餅をつくだけぇ、つきたての餅を入れてごすだが、他にもミカンやら飴やら小遣いを入れてごしよった。

あの頃、小遣いがもらえるのはシッカク踊に出るのと「とろへい」の時ぐらいだったけぇ嬉しかったよ。シッカク踊も選ばれたもんしか出られんだったけぇな。「とろへい」も小さい子はうらやましがっとったよ。

子どもが思いつきでやるもんだけぇ、やらんグループもあったけど、しごんぼはだいたいやりよった。大人も心待ちにしとったよ。「とろへい」が来そうだと思やぁ用意しとった。藁馬作ってごした大人は、たいてい自分らもやっとった口だわ。それとなくけしかけたりしよったと思うで。

40〜50年前ぐらいまではしよったが、だんだんとやらんようなったなぁ。



所蔵：高山小学校

「とろへい」は子どもが藁馬を持って各家を回る小正月ごろの行事で、広く行われていたようです。水上町では40年ぐらい前まで行われていました。いつの間にか廃れてしまったようです。近年、隣町の美郷町や飯南町で復活しニュースになっていますが、名前ややり方などは少し異なっているようです。
（水上町の吉川さん、朝野さん、渡辺さん、国本さんに伺ったお話を元に構成しました）

みんな！　待っとるでな～

第３回

五十猛のグロ

◆20メートルほどの竹の柱を中心とする大型で独特の仮屋をつくり、一年の豊漁や無病息災を祈願する「とんど」行事です。
国指定重要無形民俗文化財。

期日　１月11日(水)～15日(日)
場所　五十猛町大浦地区
［問］　五十猛まちづくりセンター
☎0854-87-0026

ホットスプリングフェスティバル 温泉津公民館まつり

◆「絆～共に遊び、共に楽しみ、共に学ぶ」をテーマに開催。温泉津が誇る元気な人や文化の“絆パワー”を発揮します！

日時　２月12日(日)　９時30分～16時
場所　温泉津まちづくりセンター
［問］　温泉津公民館
☎0855-65-3696

さんべ志学の雪あかり

心あたたまるやさしい光が
湯のまち志学をつつみます

◆ミニ“かまくら”にキャンドルを灯す「雪あかり」。きらめく無数の灯火は、あなたを幻想の世界にいざなってくれます。

日時　２月中旬　18時頃～
（約２時間）
場所　三瓶温泉街
［問］　さんべ志学の雪あかり実行委員会
（事務局:志学まちづくりセンター　☎0854-83-2167）

御日待祭り

◆夜通し火をたき、「寝たら起こせ王子や王子、五朗の王子」と叫びながら厳島神社まで町を練り歩きます。神社では拝殿に上がり、「王子や王子、ゴーロさんの王子」と叫びながら床板が割れるまで跳びはねます。

日時　２月14日(火)　20時頃～
場所　厳島神社（温泉津町小浜）
［問］　大田市役所温泉津支所
☎0855-65-3111

おおだの吹奏楽部 大活躍♪

近年の大田市内の吹奏楽部の活躍には、目を見張るものがあります。
この夏の全日本吹奏楽コンクール島根県大会においても、好成績を残し、６つもの団体が県代表になりました。
広島県で行われた中国大会での結果は左のとおりです。
中学校はもちろん、近隣の高校や社会人までもがレベルアップしており、これからも素晴らしい音色を響かせてくれることでしょう。

★第52回全日本吹奏楽コンクール中国大会審査結果★

中学校Ａの部	大田市立第一中学校	金賞（全国大会出場）
中学校小編成の部	大田市立第三中学校	金賞
	大田市立仁摩中学校	金賞
高等学校Ａの部	島根県立大田高等学校	銀賞
高等学校小編成の部	島根県立邇摩高等学校	銀賞
職場・一般の部	大田オケーショナルブラス	金賞

おめでとう

３年連続で全国大会に出場した大田一中吹奏楽部のみなさん。
顧問の竹下先生のもと、毎月、三瓶合宿を行うなど時間をかけて一中サウンドを作り上げました。
全国大会は、10月22日東京・普門館にて行われ、翌日にはディズニーシーで招待演奏を行いました。

おおだ情報ＢＯＸ

大田の文化を知ろう －ふるさとの愛と誇り－

◆地域に残された文化を知っていますか？
出演団体：小笠原流大代田植囃子、土江子ども神楽団、温泉津舞子連中、シッカク踊りほか
期日　11月６日（日）　10時30分開場、11時開演
場所　仁摩町農村環境改善センター
［問］　社）島根大田青年会議所　☎0854-82-2298

入場無料！

新春神楽（温泉津）

◆毎年恒例となった新春神楽！石見神楽温泉津舞子連中と京都瓜生山舞子連中による新春の舞いをお楽しみください。
日時　１月３日（火）　17時～22時
場所　温泉津まちづくりセンター
［問］　小林工房　☎0855-65-2565

時の祭典

◆毎年恒例の年越しイベント「時の祭典」！
１ｔの砂を一年かけて落とす世界最大の砂時計「砂暦」を回転させ、新たな時を刻みます。
期日　12月31日（土）～１月１日（日）
場所　仁摩サンドミュージアム
［問］　仁摩サンドミュージアム　☎0854-88-3776

大田市成人式

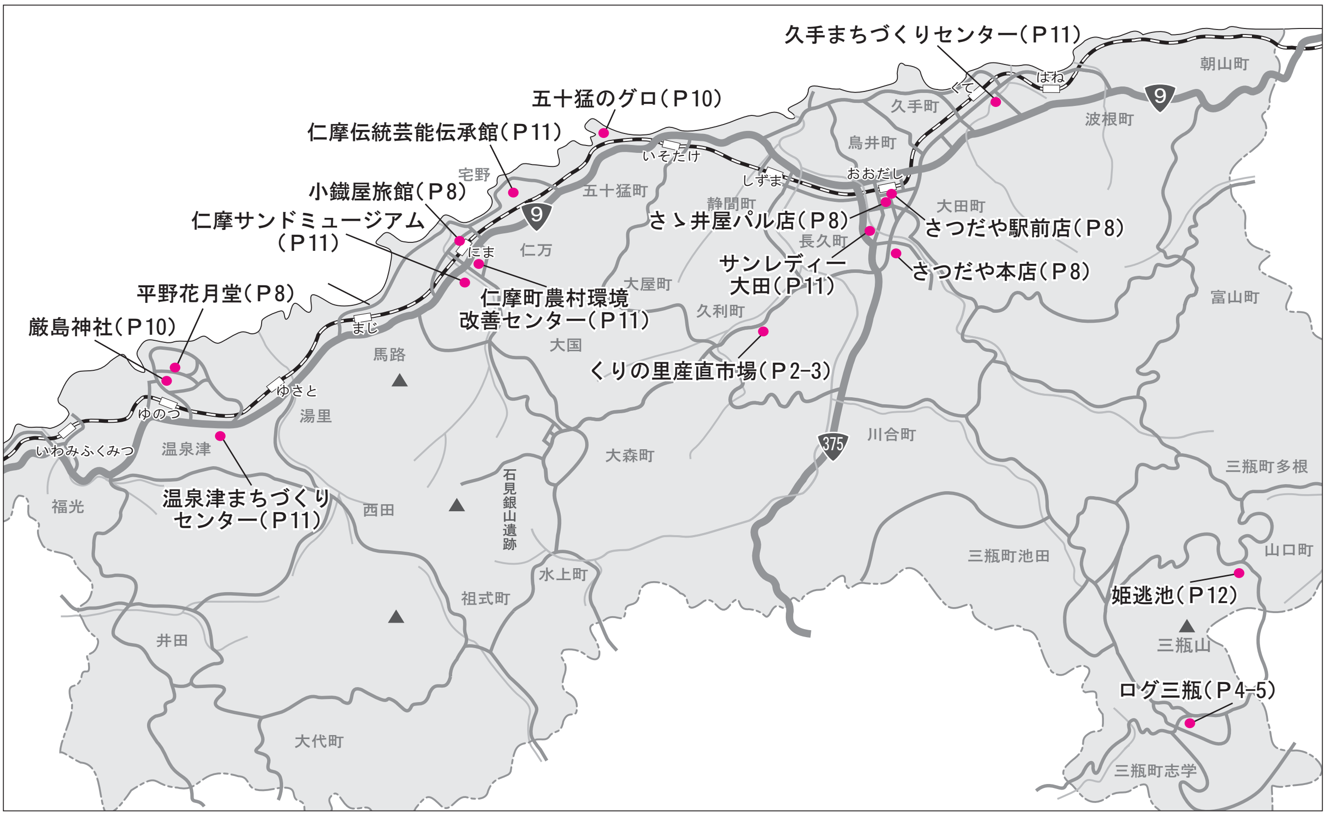
◆アトラクションも有ります。
日時　１月４日（水）　10時～
場所　サンレディー大田
［問］　大田市役所生涯学習課
☎0854-82-1600

新春・宅野子ども神楽と発表会

◆約250年余の伝統を受け継ぐ宅野子ども神楽。舞子からお囃子まで、すべて子どもだけで行われる珍しい神楽です。
期日
○新春神楽　１月１日（日）、２日（月）、３日（火）　19時30分頃～
※午前中は獅子舞を舞って各戸を巡回します。
○発 表 会　２月11日（土）　９時30分～12時頃まで
場所　仁摩伝統芸能伝承館
［問］　大田市役所仁摩支所
☎0854-88-2111

久手町「成人祝賀駅伝」

◆久手小学校の児童が久手町内をタスキでつなぎます。
期日　１月４日（水）　10時～
場所　久手町内
［問］　久手まちづくりセンター
☎0854-82-8307



ひめのがいけ
姫逃池(三瓶町多根)

★ 姫逃池の伝説 ★

長者原に、昔々、長者屋敷があって、お雪はそこの娘だった。近くに住む山賊がお雪を「嫁にほしい」と迫ってきた。

困った長者は、お雪を手放す決心をした。これを聞いたお雪の恋人の若者は、山賊の群れに一人で切り込んだ。

多人数と一人ではとてもかなわず、若者は討たれてしまった。お雪は悲しみ、池に飛び込んで若者の後を追った。

毎年6月になると、紫と白のカキツバタが花を咲かせる。カキツバタの紫の花はお雪、白の花は若者の霊だともいわれている。

▲姫逃石

＝姫逃池への行き方＝

ＪＲ大田市駅よりバスで約50分。国立三瓶青少年交流の家下車徒歩３分。ＪＲ大田市駅から車で約20分。
詳しくは、
　北三瓶まちづくりセンター　☎ 0854−86−0478
または
　県立三瓶自然館サヒメル　☎ 0854−86−0500 まで。

姫逃池の畔にある大岩は、若者が山賊を切りつけた刃先によりきれいに二つに割れた石と伝えられ、姫逃石といわれています。石の切れ目に小枝を落とし、途中で引っかかって落ちなかった時は恋が成就するといわれ、恋占石とも呼ばれています。

表紙

あの頃 ～仁万変電所前の潮川(昭和25年頃)～

表紙は昭和25年頃に小学生が潮川の清掃活動をしている写真です。

昭和21年から現在の場所で美容室を営業しておられる、仁摩町仁万の佐々木文子さん(96歳)に当時のお話を聞かせていただきました。

表紙の写真には写っていないけど、その当時にはもう少し上流(写真の下側)にもう一つ木の橋があり、仁摩中学校へ通う生徒さんや、変電所に勤める方など多くの人が利用していました。

川の中で小石を集めて中洲をつくり、そこから子どもたちが魚釣りをして遊んでいました。また真夏の暑い夜には、それぞれが持ち寄ったゴザを敷いて、橋の上で夕涼みをしていました。川面を渡る風はとても涼しく、気持のよいものでした。そして夜空を見上げると、満天の星空からまるで星が降るようでした。

現　在

今は川幅が広くなり何の心配もありませんが、この周囲は排水が悪く大雨のたびに床上まで浸水し、後片付けが大変でした。今では懐かしい思い出です。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。
発行／大田市役所総務部まちづくり推進課　TEL：0854-82-1600　FAX：0854-82-5885
〒694-0064　島根県大田市大田町大田ロ1111番地　E-mail:o-matidukuri@iwamigin.jp　http://www.city.ohda.lg.jp/
“おおだ”の定住サイト「どがどが」　http://www.teiju-ohda.jp/　どがどが　検索